

# 道徳だより



テーマ：道徳教育研究会が大切にしていることは？

令和7年6月  
京都市立道徳教育研究会  
広報部  
(第1号)

道徳科は、どうして必要なのでしょう。

『道徳教育』と『道徳の時間』どちらも道徳性の育成を目指すことを目標としており、よりよく生きていこうとする力を育てることに変わりありません。そして、道徳教育は、学校教育全般、日常的に行っています。日常的に行っているなら、なぜ道徳の時間(道徳科)が毎週1時間、年間35時間(1年生34時間)必要なのでしょう？

例えば、道徳の時間に、こんなことはないですか。  
ドッジボールをしていてどうしても勝ちたいからとルールを変える自分勝手なAさん。道徳の時間に「これからは、友達にやさしくする。」と言っていた。しかし、その後も変わらず友達にやさしくできない。  
当番活動をいつもさぼってしまうBさん。  
道徳の時間に「みんなと協力して頑張りたい。」と振り返っていた。しかし、その後も変化なし。



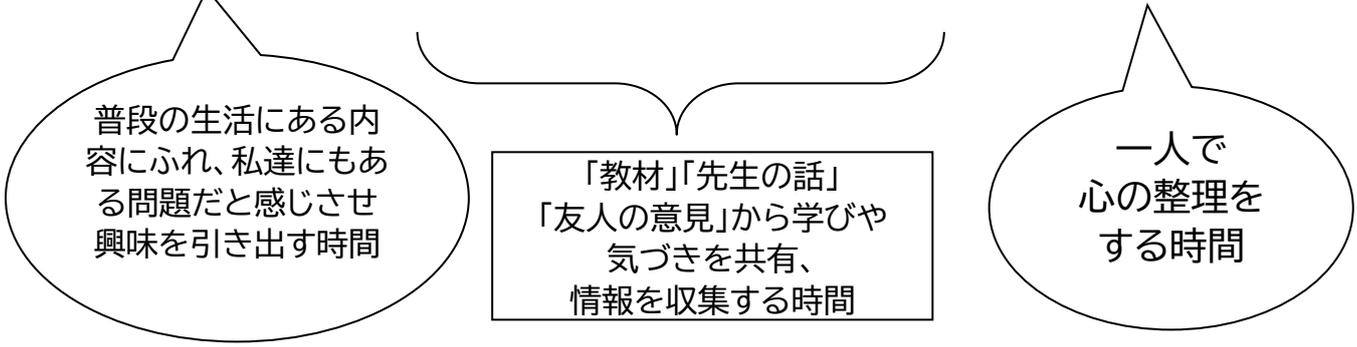
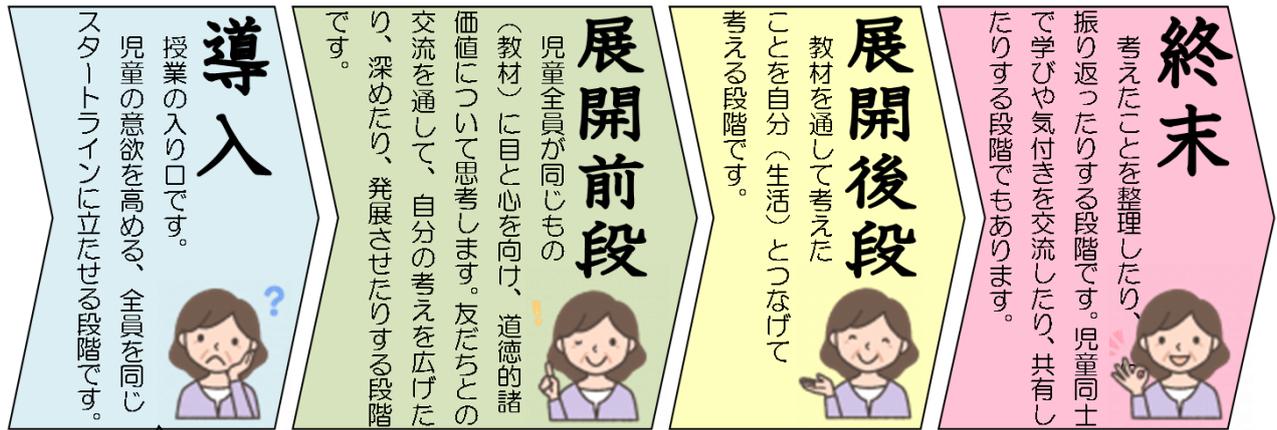
なんのための道徳の時間だったんだろう。この2人は、授業で言っていたのに、変わってない。やっぱり、道徳の時間は、意味がないのかと思っている先生もおられるかもしれません。しかし、そんなことは、ありません。この、2人も道徳の時間に何かに気づき、自分がもともと持っている、心をこの時間に引き出したのです。行動と心が結びつき実践(道徳教育)につながることで、最終のゴールかもしれませんが、道徳の時間が無かったらこの心に気付くことができなかつたかもしれません。つまり、道徳の時間は、非日常的に様々な心に出会わせるために、必要な時間なのです。道徳科では、以下の内容項目が設定されていますが、1つの項目も落とせないといわれるのはそのためです。



週1時間の授業ですが、子どもたちが持っている心を使い、心を引き出し、心を整理する時間として、とても大事な教科です。苦手に思われる内容項目もあるかもしれませんが、子どもたちの為に全ての内容項目に出合わせてあげてください。

では、毎時間の道徳科の授業は、どのような流れで進めていけばよいのでしょうか。

道徳科の授業の流れとその内容（4つのまとめ）



道徳科の授業は、先生方が難しく感じることもあるかもしれませんが、まずは先生自身が子どもたちと一緒に楽しむことが大切です。子どもたちの心の成長を促すことを意識し、たくさんの心を引き出してあげてください。

道徳教育研究会が大切にしていることは？

「道徳科の目標」は、学習指導要領などに明示されています。

（第3章 特別の教科 道徳「第1目標」）

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



自己の生き方についての考えを深める



道徳教育研究会が今年度も重点的に取り上げていきます

道徳の授業における教材研究や指導方法についてお困りの先生方は、ぜひ研究会にご相談ください。今年度も、育成・低学年・中学年・高学年の4つの部会に分かれて研究活動を行っています。先生方の課題や悩みに寄り添い、一緒に教材研究を進めることで、より良い道徳教育の実践を目指します。

【文責】 河田 理江（開晴小中学校）